
FF:U ~黒き風が幻想入り

シェング

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FF：U ～黒き風が幻想入り

【Zコード】

Z0395M

【作者名】 シHング

【あらすじ】

幻想郷に迷い込んだ黒き風。彼がたどる運命はいかに。

第一話 欠落 つしなつたきおく（前書き）

東方projectとFF・Uの一次小説です。

キャラ崩壊が嫌な方、二次小説が嫌いな方は、速やかに戻ることをお勧めします。

第一話 欠落 うしなつたきおく

「イリは……ビードル……」

緑の平原に男はいた。髪は色を失いかけている赤。左目には黒の眼帯をしていて、隻眼の瞳。目尻と鼻には赤と青の模様が刻み込まれている。黒のコートを羽織っていて、近寄りがたい雰囲気を醸し出している。そして何よりも違うのは右手が金色の物体になってしまっていることだ。

男は周りを見渡す。小さな村がかすんで見える。少し遠いが、日が暮れるまでには辿り着くことはできるだろう。

懸念することはあった。記憶が何もないこと。それでいて、金色の筒状の物のことは頭から離れないこと。何か大切なことを忘れている気がした。

「風が……鳴いている」

空気が変わる。安息から一転して張りつめたものへと。「この人間はまずそうだ」

吐き捨てる、得体のしれない何か。少なくとも人間ではない。異形のものが咆哮を上げる。それと同時に爪が伸び風を切り裂いた。

「人間にしてはやるようだな。しかし！」

物理法則に反して、直線的だった爪が直角に変化し、避けたはずの男に襲いかかる。

「くつ」

それを見て、地面を蹴り跳躍してやり過ごした。男がいた場所を爪は切り裂いていき、また収縮して持ち主の手に戻った。

この攻防で距離が開く。男は、左手に上下一連散弾銃を構える。一つの砲身があり、広範囲にわたって打つことができる武器である。

「綺麗なお花でしょう！」

「「…？」「

それは一瞬の戸惑い。美しい平原だからこそ警戒も緩んでいたのだろうか。子供が一人花を見ながら走っていた。

「離れろっ！」

「遅いっ！」

銃のけたたましい音が響き、草を散らしていく。が、それを避けていき、子供たちに接近していた。

「きやーっ！」

子供たちが悲鳴を上げる。一人は涙目になつて来るなーと叫んでいる。一人は泣き叫んでいる自分より小さな子かばうように両手を広げている。

異形のものの背中は無防備だが、今打つと子供たちに当たつてしまつ。構えてトリガーを引こうとするも引けるわけもなかつた。子供たちが毒牙にかけられそうになつた時、そいつは光によつて消滅した。

「全く。あんた達。こんなところまで来たらだめじゃない」

とつとと村に帰りなさい、と手で村の方向を指さしながら紅白の巫女は言つ。

「ごめんなさい…

雲が草の先端に付き、太陽の光に照らされ輝いていた。

「で、あんた誰？」

「…………わからぬ」

「あ、そ。気をつけなさいよね。ここら辺は妖怪も多いんだから」がくんと地面がうなりを上げる。気付いた巫女は空に避難し、男はステップを踏み、後ろに下がる。

「何……これ」

巫女が驚くのも無理はない。うねうねと気持ち悪く蠢いている無数の触手のようなものが突如地面を裂いて現れたのだから。

男は目を見開いてそいつを凝視する。見たことがある。ここでの

名前は

「オメガ……」

どくんと心臓の鼓動が高鳴る。無意識に左手の銃を乱射するが、全くと言つていいほど効いてはいない。巫女も先程の妖怪を消した輝きを放つが、大したダメージにはなつていないようだ。

「さやあ！」

伸びた触手らしきものが巫女の服を切り裂いた。傷はつけられないのが博麗の巫女たる所以。見事と言うほかにいいようがない。右手のものに光が灯る。男は感じ取つた。右手の者の生命の息吹を。

「動いた……ソイル！ 我が力！」

黒いプロペラのようなものが回り始める。それに呼応するように筒が変化していく。漆黒の物体が心臓のように鼓動を打つ。三つの銃口を持つ銃にそいつは化けた。

「魔銃……解凍！」

「魔銃……？」

魔銃と呼ばれたそれは、すさまじい靈力を持つていた。それを感じ取り、触手の届かないところに離脱した。

向かい合つ男と触手。触手は夥しい数になり、飛びかかるうと勢いをつけるために反つた瞬間に時は動き出した。

「お前にふさわしいソイルは決まつた！」

そう言い放ち、腰元からソイルと呼ばれる弾丸のようなものを取り出した。

「全ての源、マザーブラック！」

「ソイル……？」

「全てを焼き尽くす、ファイヤーレッド！」

弾倉にセットされた弾丸は、飲み込まれて最深部に到達する。

「そして全てなる臨界点、バーニングゴールド！」

魔銃の中にある蒼黒の中心が轟くように叫ぶ。ドリルのようなも

のが螺旋を生み出し、ソイルに秘められている力を抽出していく。

「なんて、靈力の流れなの……！」

「燃えよ、召喚獣……フェニックス！」

打ち出された3つの弾丸が緩やかに橢円を描き、そして重なり合い敵に直撃する。傍目には何も起つたように見えない。それは表面上の話だけだ。オメガの中でフェニックスが羽ばたきを見せてるのが男には見えていた。

次の瞬間に触手たちは砕け散り、炎を纏つた不死鳥が空へと飛んでいった。裂かれていた地面も元通りになつていて、何かが起つたような跡形もなく消し飛んだようだつた。

紅白の巫女は息を一つ吐いて、地上で男に声をかけた。

「お疲れ様。私は博麗靈夢。あなたは？」

「黒き風……」

男は名を取り戻した。いや思い出したのだ。黒き風は片膝をつき、オメガの現れた地面に手を当て立ち上がり、靈夢に背を向け歩き出した。

「あんた、これからどうするの？」

風はその答えをまだ決めてはいなかつた。

第一話 欠落 うしなつたきおく（後書き）

「」の先はまだ決まっていないので読者の皆様にゆだねたいと思います。

目安として

- 1 永遠亭
- 2 博麗神社
- 3 白玉楼
- 4 その他

よろしければ「」協力ください。

<http://shenagonovel.blogspot.fc2.com/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0395m/>

FF:U ~黒き風が幻想入り

2010年10月29日14時59分発行